



荒 貴賀 議員  
(日本共産党  
幕別町議員団)

問 高齢者が安心して暮らせる社会を

答 高齢者の生活環境を整えていきたい



全国的な少子高齢化は幕別の国政調査の高齢化率が32・6%であり、本町の高齢化率は令和5年度で34%と住民の3人に1人が高齢者であり、全国と同じ傾向にある。高齢者は「多年にわたり、社会の進展に寄与してきた者」「豊富な知識と経験を有する者」として「敬愛されるとともに、生きがいを持てる健全で安らかな生活を保障される」と老人福祉法に明記されている。高齢者が安心して暮らせる社会をつくることは、政治の重要な責任である。ところが、社会保障費の自然増は圧縮させ続けている。高齢者が大切にされ、安心して老後をおくれる社会の実現を求め、以下伺う。

①コミバスの幕別札内間の運行の考えは。  
②外出支援サービスの拡充の考えは。

③自治体が独自で実施し好評な「タクシー補助券」の導入の考えは。  
④公営住宅の支援について、減免制度の利用状況  
⑤高齢者支援の周知方法について拡充を図るべき町の考えは。  
⑥道内でも18自治体が実施している高齢者補聴器購入助成の実施の考えは。

町長

①コミバスの運行経路変更や乗降場所の見直しを行い、さらに、75歳以上の高齢者と65歳以上の運転免許証自主返納者の運賃を本年7月から無料とする。  
②幕別札内間は、鉄道・路線バスとこれに接続するコミバスにより確保されている。今後はアンケートを実施し、運行需要や運行方法について調査研究していく。  
③外出支援サービス事業は、2か月に5回まで利用できるが、公的機関などが実施する行事等へ参加する際の利用は含まない。利用者から、不十分だという声は聞いて

いないため、現時点で、利用回数を増やす考えはない。  
④外出支援サービス事業、低料金でのデマンドタクシー実施、コミバス運賃見直しなどで支援しており、現状のサービスに加えてさらにタクシー代の助成を行う考えはない。  
⑤電気料金の値上げは全町民が同じく負担増となっており、公営住宅の入居者に限定した支援は、公平性を欠くため、実施予定はない。

既存の照明器具は消費電力の少ない蛍光灯が多く、LED化による電気代の縮減が少ないことから、既存の器具を最大限有効活用し、器具の更新時に合わせて順次LED化している。  
今後は、ゼロカーボンへの取組の中で、LED化を前倒しして実施することについても、検討しなければならぬと考える。  
減免制度については、全入居世帯のうち減免を受けている世帯の割合は44%で、増加傾向にある。65歳以上の高齢者世帯うち、減

免を受けている世帯、51・2%となっている。

今後も、減免制度の内容と申請の勧奨をして制度の理解促進に努めていきたい。

③健康教室や介護予防教室、しらかば大学や老人クラブなどへの出前講座等、あらゆる機会を通じて、事業の概要や相談先の周知を図っていく。

④本年度策定する「第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」に係る実態調査において、高齢者の補聴器に関するニーズを把握し、補聴器購入に対する効果的な助成事業の在り方について、できる限り早期に方向性を見いだしていく。

